

名称	JSR 株式会社 千葉工場
場所	千葉県市原市千種海岸 5
研修の概要	<p>2014 年 7 月 23 日に発生した同社、四日市工場での重大労災事故をきっかけに、保安力の向上と重大労働災害の撲滅を目的として全社的に 2 つの安全プロジェクト活動が発足した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全基盤改革プロジェクト ・労働災害撲滅プロジェクト <p>プロジェクトの発足から 1 年後の 2015 年 7 月より安全祈念式典を開始、プロジェクト活動の振り返りを報告するとともに、2016 年から安全文化の醸成活動の一環として、社内の安全活動の良好事例をプレゼン形式で紹介する、安全衛生活動フォーラムを開始した。</p> <p>なお、その背景には、安全対策が進み危険体験をしたことがない為に、危険を危険と感じることの出来ない社員が増えている状況下、安全感性の醸成が大きな課題となっている。</p> <p>同社、千葉工場では、以下の取り組みを行い安全フォーラムで情報を共有化している。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 語り部活動 ② 保安当直者の不安解消 ③ VR 体感教育 <p>① 語り部活動</p> <p>入社 6 年目以下の社員を対象に、労災やヒヤリハットを体験したベテラン社員（語り部）が自らの経験を直接伝えている。自らの苦い経験を若手の成長につながるのであればということで、ベテラン社員もこの活動を快く引き受けているとのこと。世代を越えたコミュニケーション活動としても重要な活動となっている。</p> <p>ベテラン社員の経験を受講した若手社員がその内容をまとめ、事故事例集として教育資料としている。</p> <p>② 保安当直者の不安解消</p> <p>災害発生時に迅速に対応できるよう、配置の工夫や必要資料がすぐに揃うようなハード（PC）の整備を行った。</p> <p>災害発生時の初動体制を見直し、従前は保安当直者 1 名のみで官庁、社外対応をしていたが、リスクを考慮し 2 名で対応する体制とした。</p> <p>災害発生時は専従消防隊員/保安責任者が現場に出動し、専従消防隊員/保安当直者の 2 名で災害情報支援ソフトを活用し 6 分間で状況説明資料が準備できるようになった。（現場対応と支援業務の分離が出来た。）</p>

③ VR 体感教育

「作業手順教育」と「事故体感」を目的に VR 機器を活用。配管内のゴミを取るストレーナー交換作業を体感するもので、近隣の工場でも行われる一般的な作業を取り上げた。今後、近隣の工場への公開も検討している。

「事故体感」は、類似体験のあるベテラン社員は怖さを実感するが、類似体験の無い若手は「ゲーム感覚」になってしまうとのこと。しかし、このような怖さがあるということ気付かせることはできるし、一緒に現場に出たとき、あのシーンは、この場所だ、というような注意喚起もしているようだ。

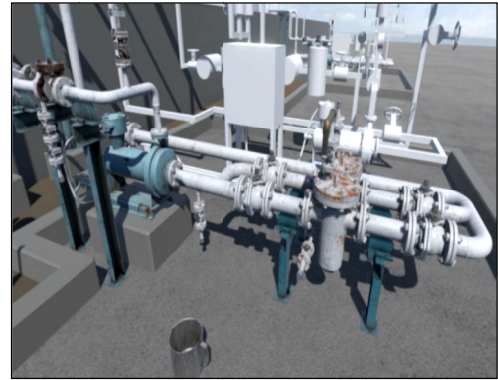
VR は、導入して 2 年ほどだが、千葉工場の従業員約 200 人が、全員体感している。

作業手順教育では終了後、チェック項目ごとに評価した「結果発表」がある。

今回は、静電気着火等の事故体感 VR を体験させて頂きましたが、被液体感などその他の疑似体験プログラムもあるとのこと。



VR 装置装着



VR 画像

その他、全社的な取り組みについて

・全社方針に加えて、各工場、各部署で、弱いところを中心に安全活動を展開。

・四日市工場には、過去の重大設備災害で破損した事故の現物が展示されている。

また、実習用のミニチュアプラントや巻き込まれ体感などの一般的な危険疑似体感プログラムがある。

・海外展開は、今後の課題。

公開状況	原則、非公開
見学	2019.12.11、三谷（記）写真は、JSR から提供